

会派調査(研修)報告書

NO.

令和 7年 11月 17日

胎内市議会議長

八幡 元弘 様

森本 将司 (報告者) 会派名 政和会

代表者名 天木 義人

会派調査(研修)について、下記のとおり報告します。

調査・研修日 時	自 令和 7年 11月 11日 至 令和 7年 11月 13日 日 時 2泊 3日 (3日間)	調査・研修場 所	岡山県奈義町： 奈義町役場、なぎチャイ ルドホーム 徳島県鳴門市： 鳴門市役所、道の駅くる くるなると 兵庫県小野市： 小野市役所
調査・研修事項	奈義町：少子化対策 鳴門市：道の駅くるくるなるとの運営 小野市：独自の行政経営手法		
調査・研修出席者(参加者)	天木義人、小野徳重、森本将司、坂上隆夫		
相手方(対応者)	奈義町：副町長 金田 知巳、情報企画課 井戸 鳴門市：議長 藤田 茂男、政策監 小泉 憲司、戦略企画課長 吉川 慎太郎 小野市：議長 平田 真実、総合政策部長 藤本 寿希、 企画政策グループ主幹 甲山 秀樹		

調査の結果または概要

奈義町：少子化対策

奈義町子育て応援宣言の下、令和元年には合計特殊出生率 2.95 を記録した。大きな要因には出産から成人までの切れ目のない経済支援にあるということだった。

鳴門市：くるくるなると

オープン後、連続して年間来客数 100 万人以上を達成しており、屋上は遊び場兼避難所として利用できるように作られている。指定管理料を 2,500 万円払っているが売り上げからのマージンが 1 億円を超えており、市の財源となっている。

小野市：行政経営手法

民間出身の市長により「顧客満足度志向」、「成果主義」、「オンリーワン」、「先手管理」を行政運営の 4 つの柱に全国に先駆けて小野市独自の政策を打ち出している。

調査の所見・感想

奈義町：少子化対策

経済支援の事業費は一般会計予算の 5 %、年間 3 億円とのことだった。給食費や医療費の無償化、通学費の補助など手厚いことはわかるが何もかも補助をすることが果たして人を育てるという面で正しいことなのかとは思った。当市よりも出生率は高いがそれでも人口は減っていることから、子育てに限らず誰のために何をすべきかを適切に考えていく必要がある。

鳴門市：道の駅くるくるなると

避難所併設の道の駅ということだったが屋上に 300 人程度のスペースがあるだけで屋根もなく一時的な避難ができる場所ということだった。有事の際には豊富な商品を支援物資に転換するとのことでその点ではメリットは感じた。避難所の環境としては十分とは言えないがメインの道の駅としては素晴らしい施設と感じた。

小野市：行政経営手法

成果主義については行政サービスと民間の経営手法は必ずしも馴染むものではないが、成果におけるペナルティを設けない、人件費を削らないなど良い意味で行政向けにプラスアップされているように感じた。一方で全ての職員の理解を得るまでには相当な時間が掛かったものと推察する。同じやり方を真似して成功するものではなく、市長と職員の間に確かな信頼関係があってこそこの手法だと思った。

成果目標の設定やオンリーワンの政策など守りに入りがちな行政において積極性を持つためにも大切な考え方だと思う。政策提案について通り易いから他市町村を真似るのではなく、市民ニーズを捉え、オンリーワンを目指すのは議員として通じるものとして考えさせられた。